

烏森トレッキング回想記

第五回

日時：'99. 11. 13 (土) ~ 11. 14 (日)

概略行程：

1日目 青梅駅～青梅鉄道公園～青梅丘陵～矢倉台～宮ノ平駅～御岳駅～御岳平～

宿泊／南山荘

2日目 長尾平～大塚山～御岳平～御岳溪谷～御岳駅

メンバー：齋木、米本、山田、吉川、磯崎

晩秋の晴天下、予定のメンバーがJR青梅駅に集う。

青梅市は、「御岳山」をも市域とする奥多摩地区の中核都市で、文字通り、「梅」の名産地。

駅前コンビニで食料を整え、早朝市街に靴音を響かす。

青梅線の踏切を渡ると、直ぐに丘陵への上りとなり、連続の急勾配に、早、心臓の高鳴り覚えるも、道の先に見える碧空と開がる市街展望で力を湧かす。

最初の訪問地、「青梅鉄道公園」は、ほど近く、庭に、「SL」並べて大歓迎。入園料は、来園者数のカウントを兼ねて、回転レバーを回すワン・コイン（100）。

園は、想像した程には広く無く、展示資料も期待した程の内容は無し。目玉のSLは、その厚化粧故か、力強さ、逞しさを欠き、意外に小さく感じられたのは、余りにも遠い過去の記憶との比較故か。

早々に見学を切り上げ、丘陵ウォーキングコースへと戻る。

（'05. 9 時期は定かでないが、現在では、懐かしい初期の新幹線車両が展示に加わっている由）

丘陵歩きの入りに目印は、舗装路外れる土の道。

「青梅丘陵」は、市街北部を東西に走り、西端からは西北尾根に連なり、最終、「雷電山」、「榎木峠」、更にその先は、「高水三山」へと繋がる緑の回廊。

展望が開ける南面側からは、手前より順に、「青梅線」、「青梅市街」、「多摩川」が見渡され、更にその先には、「金比羅尾根」の稜線を遠望する。

ウォーキングを楽しむ地元市民は多く、親子連れ、犬の散歩と、擦れ違う人々の目的済々も、装いと風景との馴染み振りは見事なもの。

「紅葉」と「多摩川の俯瞰」を楽しみにしたが、前者は御岳駅周辺同様、標高400m内外にて、時期尚早と早々に断念。後者は樹の繁りもあり、第三、第四休憩所、それに矢倉

台から蛇行の一部を見るが精一杯で、時期誤めたりと反省する。

とは云え、青梅市民自慢の地。樹目豊かな樹々は自然林の美しさに溢れ、「冬枯れ期の雑木林」、「早春芽吹き of 萌葱色」は、さぞ見事ではとの思いを馳せる。

一応の目的地とした「矢倉台」は、屋根付の休憩所を置く小さな丘。

宴会客が占有し、そのうち酔客1名の転倒を見るに至っては、眉をしかめるばかりか、不愉快千万。

止む無く丘下ベンチで昼食とする…、**おととと…おととと、大事な大事な「カップ・ヌードルビッグ」がコロコロと崖下に…追っかけっこする内、不快さ増幅。**

(翌日、雪を冠した「富士山」が、金比羅尾根の向こうに、高嶺の一部を見せていたと聞き、**カップの点検に多忙で、それも見逃したと怒りが再燃**)

赤土のだらだら坂を、無人駅、「宮ノ平」へと下る。

駅近くの畑地に、「向日葵」の大輪を見つけ、盛夏と錯覚、思わず汗を拭いてしまう習い性に苦笑い。

宿は前回に続き、「南山荘」。理由は簡単、前回、京王電鉄勤務の亭主からビールのサービスを受け、再訪を約束していたため。

何たる幸運か、広いベランダから見上げる夜空には満天の星。

名指しできる星は無いが、遠い記憶に残る“星降る夜”の再現で、何年振りかと、ずっと以前の記憶を辿り、天を仰いで、しばし見入る。

遙か彼方、都心の灯も明るく、空気澄み渡る今宵と知る。

翌早朝、寝ぼけ眼でカーテンを引くと、正面、「日の出山」が夜明けの白みの中に黒い稜線を引き、黒白、墨絵の世界を醸し出し、しばらくすると、徐々に白みが赤味を帯び始める。

やがて真っ赤な太陽が山端に姿を見せ始めると、黄金色の輝きへと見事に変化、これは大変とメンバーを起こし、久し振りの「日の出」を愛でる。

太陽が、すっかり風景に馴染む頃、いつの間にか「日の出山」の背には、真っ青にペイントされた秋の空。まさに、晩秋、好日の始まり風景なり。

(・きっ端から、“米本氏は何処に”と望遠鏡を操作していた御仁から、発見したとの報告終に無し)

【余談12】米本氏は、毎訪問時、早朝の「日の出山」登山を続け、幾度も、「日の出山」

から、「日の出」を迎えている由。

しかし文献を調べて見ると、「日の出山」の名称由来は、日の出を迎える山にあらず、御獄神社より見て、日の出が上がる山の所以にて、**この所は押さえて置く必要がある、うん！（“してやったり”のうなずき表現）**

長尾平で紅葉を楽しんだ後、大塚山に寄る。

途中、道を間違え、古里方面への巻道を歩いたため、無駄な急登を強いる結果になったが、下りをいつもの道に取り、豊かな秋色を満喫する。

行程最後は、富士峰園地脇の坂道を御岳平へ歩く。途中、会話する人はなく、靴音のみ山道に響き渡る。

昼食は、下山後、御岳駅近くの溪谷岩場に降り、南山荘製の「おにぎり弁当」。

溪流の向こう岸に、鮮やかに黄葉掀げる大樹が数本、大岩に立って、溪谷に降る秋を改めて観る。